

- 1、目指す学校像 一人ひとりを「特別な存在」として大切にする教育  
校訓「正・浄・和」に基づく「本当の自分」を生きる教育

2、重点目標

1) 学校全般

校訓「正・浄・和」の中でも、今年度は特に「正」について考えを深め、「ほんとうの私を生きる」とはどういうことなのか、「ほんとうの私」の意味の深さを日常の体験を通して考え、個々の心の成長へとつなげていく。

校訓「正」の理解とともに、「正」を支える理念として、「浄」及び「和」の理解の深化を図る。

アッセンブリ（全校集会）を通して実践目標「正」の理解を深め、放送朝礼や校長からの「手紙」として配布される補足資料を活用してさらなる理解の深化を進めていき、日常の学校生活におけるあらゆる面において、生徒の行動や考え方の支えとして校訓や実践目標が生かされることを目指した。

7月のアッセンブリでは、生徒の意見をつのり「正」についての理解を深めるなど、生徒は「正」について真剣に考えていることが確認できた。

また、校訓や実践目標を基盤として明の星教育を実践すべき教職員が一枚岩となって困難を抱えた生徒に対応することができた。

次年度は、校訓「正・浄・和」の中において、特に校訓「浄」を実践目標として生徒と共に考えていく。その際に、「浄」及び「和」の上位概念とも言える「正」に対する理解は、「浄」の理解がなお一層必要となってくることに留意して指導にあたっていく。

## 2) 教育

中高一貫教育の中で、学習指導及び行事のより一層の充実を図る。

充実した学習指導と共に、学びを通して得られる喜びや発見が、自己の心の成長につながるよう指導し、生涯に渡って「最善のわたし」を追い求める姿勢の素地を作る。  
行事においては、生徒が明の星らしい行事を体験できるよう工夫を行う。

新学習指導要領に基づくカリキュラムを軌道に乗せるため、日々の授業の準備において、教師一人ひとりが、真の学力の醸成に向けた教材研究を真摯に行った。そして今年度導入した電子黒板やタブレット端末の授業における適切な活用法を模索し、生徒の学力の定着とともに伸長を目指す学習指導を実践した。

今後はこの努力を継続し、よりいっそう質の高い、生徒一人ひとりの自己実現を目指す教育を追求し、学習指導の充実を図っていく。

行事においては各行事の実態に鑑み、生徒の安全等に十分に配慮をしながら具体的な実施方法を検討したため、概ねどの行事においても生徒は積極的に参加し、十分な達成感を得られた。  
今後は生徒が主体的に参加できる行事の企画を行う。

=達成度 A

## 3) 広報

明の星教育を広報する方法、特に学校見学会・説明会の充実を図る。

明の星の目指す教育を的確に広報し、教員一人ひとりが明の星教育を理解し、教員一体となって広報活動に努めることを通じて、学校見学会や説明会並びに広報資料の充実を図る。明の星の目指す教育内容を幅広く多くの人に広報する。

インターネット出願システムの改善等、入試広報業務がより良いものになるよう、常に検討を重ねていく。

学校見学会、学校説明会の実施。学校紹介パンフレット・新聞・DVDの作成。中学校フェア等への参加。

社会の現状に合わせた入試広報、入試業務への変更、その確立。

学校見学会、学校説明会を通じて明の星の精神、教育理念について、広く広報することができ、ほぼ例年同様の入学出願者が集まった。

=達成度 A

#### 4) 財務

健全な財務管理。

計画的な財務の確保を継続し、財務目標の達成に努める。

創立60周年行事等を踏まえた財務管理。

計画性のある予算の組み立ての中から、その都度の必要性に応じ、確実な予算執行が行われた。

=達成度 A

達成度 A ほぼ達成 B 概ね達成 C 変化の兆し D 不十分

## 2024年度学校関係者評価

浦和明の星女子中学・高等学校

学校関係者評価委員会

日 時 2025年3月31日

関係者 学校関係 : 校長 高校教頭 中学教頭 事務長

正和会 (保護者会) : 会長、副会長三名

※ 書面にて実施

1.

○明の星で学ぶようになってからは、自分自身を見つめ、「この行動は『本当の私』がもたらす行動なのか、この結果は『本当の私』が起こしたのものなのか」を考えるようになったと感じている。

○校訓「正・浄・和」が6年間の中で生きる土台となり、自己肯定ができるようになったのではないかと思う。勉強だけではなく、人として成長できる教育だと感じている。

2.

○親身になって見守り声をかけてくれた先生方、素のままの自分を出してもよいと思えるお友達、親よりもよほど頼りになる先輩方、このようなつながりと環境がバランスよく、安心して勉学に取り組むベースになったのだと思っている。

3.

○明の星が自由であるからこそ、自己を見つめる、見つめ直すこともあり、人としての成長が見られる。

○一人一人が自己肯定感を持ち、自分を大切にできる心を育む、素晴らしい教育をしていると思う。

4. 本当に大切にしなければいけないのは？と丁寧に考える習慣を身に着けられたのは一生の財産だと思っている。

日本の将来をまかせていく若い力が明の星からどんどん生まれていくことを願っている。

学校からのお知らせなど、ICTの活用をしてもらえるとありがたい。

# 2024年度 浦和明の星女子中学・高等学校 第三者評価

## 【1、 学校全般】

○校訓「正・浄・和」に基づく「明の星教育」を中高一貫教育の中で実現する。

今年度は校訓「正・浄・和」の中でも特に「正」に焦点を当て、「ほんとうの私を生きる」ことの意味を日常の体験を通じて考え、心の成長につなげた。また、「正」を支える「浄」や「和」の理解も深化させるため、アッセンブリや補足資料を活用し、生徒の行動や考え方を校訓に基づいた取り組みを進めた。特に7月のアッセンブリでは、生徒が「正」について真剣に考えている様子が見られ、実践目標への理解が深まり、さらに、教職員が連携し、困難を抱える生徒に対して一丸となって対応できたことも成果として見受けられた。

## 【2、 教育】

○学習指導及び行事のより一層の充実を図る。

中高一貫教育の中で、学習指導と行事のさらなる充実を図った。学習指導では、生涯にわたって「最善のわたし」を追求する姿勢の基礎を育むことを目指し、新学習指導要領に基づくカリキュラムや電子黒板・タブレット端末の活用を通じて、生徒の学力の定着と向上に取り組んだ。また、教員一人ひとりが日々の授業において、真の学力の醸成に向けた教材研究も真摯に行った。行事では、生徒の安全等に配慮しながら具体的な実施方法を検討したこともあり、生徒は積極的に参加し、十分な達成感を得られた。

## 【3、 広報】

○明の星教育を広報する方法、特に学校見学会・説明会の充実を図る。

明の星の教育について広報活動では、学校見学会や説明会の充実を図り、教育理念や目指す教育内容を的確に発信した。教職員が一体となって広報活動に取り組み、学校紹介パンフレットや動画作成、中学校フェアへの参加など、多角的な広報を実施し、教育の根幹にある校訓「正・浄・和」に基づく理念をわかりやすく伝えることができた。また、インターネット出願システムの改善や社会の流れに適応した入試広報を実施し、昨年同様の出願者数が集まる結果となった。

## 【4、 財務】

○健全な財務管理を行う。

計画的な財務管理を継続し、財務目標の達成に努めた。創立 60 周年行事を踏まえ、必要性に応じた予算の確実な執行を行い、計画性のある財務運営を行った。

## 【5、 保護者】

○明の星教育について保護者への啓蒙を図る。

明の星の教育内容について、保護者会や正和会行事を通じて、理解を深めることができた。また、それらの行事を通して、保護者と教員が和やかに交流することができ、相互理解が深まり、信頼を感じ取ることができた。

以上